

# 平成30年度 港区立麻布幼稚園経営計画

港区立麻布幼稚園

園長 大島 美知代

## I はじめに

本区では乳幼児人口の増加に伴い、様々な対応を進めている。幼児教育振興アクションプログラムを参照すると幼児数、特に3歳児の人口増加は進んでいる状況である。今年度園庭に増築工事が本格的に始まり、園庭は使用できない。学年1学級ずつ3歳児、4歳児、5歳児の保育室が横並びの環境も最後となる。今年度は園庭の遊びの補完として、併設小学校の校庭・体育館の利用だけでなく、3階の図書室や校庭にある砂場の利用もお願いすることができた。完成前ではあるが整地された「バツタ園」を広場として利用することにした。その上、六本木アカデミー内の小、中学校、幼稚園の施設の活用や歩く活動を増やす意味でも地域の公園等の活用を考えている。園庭ではできない固定遊具の利用や起伏のある遊び場等を園児の体を動かす活動の補完とし、園庭はなくても運動的な活動も充実するように考えている。

本園は引き続き担任3名とも産育休代替教員である。産育休代替教員は経験豊富であり、2名は本園の教育の理解ができる教員である。もう1名は昨年度まで港区で勤務経験のある代替教員である。3名とも他区等の公立幼稚園での指導経験をもち、その力を港区の教育と融合して指導してもらうようにする。そして今年度も主任教諭を要として、担任は幼児、保護者の実態を丁寧に把握し、幼児期の教育を丁寧に説明し、保護者、地域、他学級とも良い連携をして指導してもらう。特に今年度の新入園児は第1子が多く、本園が初めての幼稚園という家庭が多い。昨年度にもまして入園前の育ちや家庭環境、家庭の育児に対する考え方を聞き取り、理解した上で幼稚園の教育について丁寧に説明し、要望にも丁寧に対応し、信頼関係を築いていかなければならない。

平成30年4月には幼稚園教育要領の完全実施の年である。幼稚園から小学校・中学校までではなく、高等学校までを見通した教育をすることが明記されている。幼児期の教育は高等学校までつなげる教育の基礎を育てる大切な時期である。基本的生活の習慣や規律等を身に付ける生活の基礎、集団で生活し、いろいろな人と関わり方を知る、共に過ごす楽しさを感じる等の人の関わりの基礎、学ぶ楽しさ・気付きの面白さ・もっと知りたい、もっと考えたい、等の意欲をもち、挑戦、実現する等の学びの基礎を育てていくことが必要である。「修了までに育てたい10の姿」については幼稚園と小学校の接続について、小学校、幼稚園教員が話し合う機会を設定し、幼児教育から小学校教育のスムーズな連携につなげていくことに力を注いでいく。

今年度は園舎の増築がある上に麻布小学校、幼稚園の周囲の大きなビルが壊され、園児の周囲で様々な工事が始まり、落ち着かない状況も起こっている。本園の園児を取り巻く状況は様々であるが本園では港区の公立幼稚園の使命として本園の教育の質を向上させていかななくてはならない。地域・保護者からの期待に応え、園児も保護者も共に育つ幼稚園経営を行っていききたい。せめて幼稚園は幼児と保護者、地域の人が集い、いつも安心して安全な環境が用意され、その中で幼児が主体的にのびのびと過ごせるよう、保護者と地域と連携して教育を進めていききたいと考える。

来年度は創立85周年を迎える。その年に園児が増え、麻布幼稚園が生まれ変わり、活気のある幼稚園となるように今年度はその基礎固めの意味を込めて教育を推進していく。

○幼児も保護者も教職員もみんなが育つ

○いつでも安心、安全な幼稚園

○幼児が環境に意欲的に関わり、心身共に豊かに育つ幼稚園

○幼児の成長のために幼稚園・家庭・地域が連携して協力する幼稚園  
をつくりたい。

<信頼・学び合い・育成>

## II 教育目標

### 港区教育ビジョン（港区教育大綱）

基本理念 ・すべての人の学びを 支え つなぎ 生かす

目指す人間像 ・生涯を通じて夢と生きがいを持ち、自ら学び、考え、行動し、未来を創造する人

基本的方向性 (1)「徳」「知」「体」を育む学び (2) 生き抜く力を育む学び

(3) 生涯を通じた学び (4) 地域社会で支えあう学び (5) つながり、伝え、循環する学び

⇒これを受け、港区版「小学校入学前カリキュラム」育てたい3つの力

○生活する力 ○発見・考え・表現する力 ○かかわる力

### 港区立麻布幼稚園の教育目標

幼児期は生涯にわたる生活や学びの基礎を培う重要な時期であることを念頭に置き、自ら考え、行動できる人間性豊かな幼児の育成を目指す。

○ げんきな子 ○ やさしい子 ○ かんがえる子

## III 目指す幼稚園像

本園は以下の幼稚園像を掲げて、園の経営を推進する。

- ・幼児も保護者も教職員もみんなが育つ
- ・いつでも安心、安全な幼稚園
- ・幼児が環境の意欲的に関わり、心身共に豊かに育つ幼稚園
- ・幼児の成長のために幼稚園・家庭・地域が連携して協力する幼稚園

### 【目指す幼児像】

- ・元気な子～基本的な生活習慣を確立し、元気に挨拶し、規律を守って元気に明るく活動する幼児
- ・やさしい子～いろいろな人との関わりを通して、互いの良さや違いを認め合い、人と好ましいかかわりのできる幼児
- ・考える子～夢中になって遊び、様々な体験に意欲的に取り組み、好奇心や探究心をもって活動に打ち込める幼児

### 【目指す教職員像】

キーワード 安全・安心・つながり・学び合い

⇒危機に対する鋭敏な予測、適宜声のかけ合い、共通に素早く対応する教職員

⇒適切でより良い環境構成、教材選択、幼児の実態把握、適切な指導方法を生み出し、実践する教職員

⇒PDCAサイクルによって自分や他の教職員の評価から自分の保育を見直せる感度をもつ教職員

⇒教師が互いに学び合い、高め合おうとする連絡、連携のよい教職員

⇒「働き方改革」の通り、学級の戦略、社会的使命を持ち、計画的に仕事をする教職員

⇒保護者が子育てを楽しみ、親として育ち合えるよう支え、共に考える教職員

⇒子どもの成長のために、幼稚園と家庭がより良い連携を考え、実践、改善する教職員

⇒気持ちのよい挨拶、相手の話を傾聴、丁寧な説明ができる、プロとして意識をもって行動する教職員

⇒地域や同じ地区の保育園、小・中学校と適切な連携を図り、自分の資質向上に取り組む教職員

⇒向上心、自己での決断、学びへの関心をもつ教職員

⇒教育公務員としての使命、サービスを意識し、決して間違えないよう常に意識を高くもち、自分の行動を律することができる教職員

#### IV 中・長期的な経営目標と方策

平成30年度の幼稚園教育要領の完全実施を踏まえ、教育要領の教育のねらいを達成できるよう、日々の保育を進める。平成31年度の定着を目途とする。平成31年度、本園は増築等が完成し、3学年とも対応学級ができて6学級となる。

3学級園としての集大成として指導計画、教育計画を、また本園の特色ある教育活動や地域・近隣施設との連携等を記録に残し、PDCAサイクルを起動させ、1学年1学級の指導を基本として、積み上げてきた指導計画、教育計画等を複数学級の指導に生かしていきたい。

3学年6学級複数学級園として、新しい環境（園舎・園庭）の利点を生かした保育を構築していきたいと考える。今年度のうちからも他学級との連携の観点を考え、連携しながら学級の幼児の育成に当たっていく。新しい環境になることを予想し、見越してより良い活動のさせ方を考えつつ、保育を進める。それと同時に、今単学級編成でも学年の発達課題や教育の課題を考えて1年間に計画的に指導していくようにする。

新しい教育の方向や目指す幼児像・教職員像を踏まえて、教育目標や幼稚園像を具現化するために、以下の中・長期目標とその方策を設定する。

##### ①3年間の成長を見通した年間指導計画の作成・改善と検証

特に1学年1学級ずつの指導のねらい、環境構成・教材・留意点・新しい環境ならではの指導計画を完成させ、現在の指導計画の修正を加え、実践・検証・改善しながら3年間の教育を確立する。

##### ②主体的に生活し、様々な人や物に関わり、自信をもって行動する幼児の育成

幼児が「自分のことは自分です・自分の気持ちは言葉で自分で言う、相手に伝える」という意識をしっかりともち、自立した生活ができるように基本的な生活習慣の確立を目指し、幼稚園での役割を意識して指導に当たる。また、日々の生活の中で、幼児自ら安全な生活を送ることを意識させ、安全を第一に考えて教師が意識してしっかりと安全指導を徹底する。集団生活において、相手の気持ちや周囲の状況を理解してきまりを守れるようにしっかりと指導する。

幼児が主体的に様々な活動に意欲的に関わることができるよう、環境を工夫するとともに年齢にふさわしい経験が出来るよう、発達に合わせて意図的、計画的に指導する。また運動会、作品展、子ども会等では協働的な学びの体験として意図的に指導し、運動、表現する意欲、言語的、音楽的表現意欲を伸ばせるように環境を整える。のびのびと自己を発揮したり、互いの良さを認め合ったりできようにし、様々な自己課題を意図的に取り入れたり、挑戦したりさせ、自己肯定感を育むとともに、達成感から自信をもって行動できるように指導する。

##### ③資質向上をめざし、互いに学び合い、高め合う教師集団の育成

現在正規教員は育休中である。学級増に伴い、新規採用教員、若手教員の採用になることも考えられる。幼児に愛情を注ぎ、麻布幼稚園の教育を理解し、幼児育成に情熱をもって日々勤務できる教師を目指して育成に当たる。常に専門性の向上と幼児、保護者の実態をつかみ、受け止めて感度よく関わられる教師、保育技能の向上、保護者対応、園務分掌の仕事の進め方、園内の他の教師との望ましいかかわり方と連携の等を日々学んで、明るく健康で、自信をもって職務を遂行できるようにする。

一人では勤務遂行が難しくても教師同士が互いの良さを認め合い、弱点、苦手な分野は磨き合い、フォローし合って、学年主任、主任教諭を中心に協働できる教師集団を確立し、共に向上できる「チーム麻布」を目指す。

#### ④地域、港区と連携し、信頼される幼稚園、地域の子育ての拠点となる幼稚園づくり

子育て支援の活動や未就園児の会の活動に教師も参画しながら地域の幼児教育センターとしての役割を果たすようにする。保育後の「預かり保育」も教育課程内の活動であるので、保育との関連を考え、幼児、保護者が1日を健全に過ごせるように連携を図り、預かり保育との関連性を強める。

保護者とは積極性に会話し、丁寧で分かりやすい説明を心掛け、話しやすく、一緒に幼児の成長や育児の悩みを気軽に相談できるようにする。共に考え合い、保護者の信頼関係を大切にする。同じ教育の姿勢で関わり、共に幼児の成長を喜び合えるようにする。

地域の方、保護者の方に本園の教育姿勢、教育方針、取り組みを様々な方法で周知し、地域や保護者の力、要望やアドバイスを適宜取り入れ、共に幼児を育てていく体制作りを考える。幼児にとっても自分の親以外の地域の大人の存在や取組を知らせたり、感じさせたりすることで、地域で育つ良さ、地域の愛情も感じて成長できるようにする。

#### ⑤小学校への円滑な接続

港区小学校入学前教育カリキュラム」「5歳児ポイント集」「家庭で大切にしたいことハンドブック」を積極的に活用する。保護者会、学級懇談会、個人面談等や学級だより等で有効活用する。併設の麻布小学校との連携や交流を積極的に進め、担当学年同士だけでなく、園内共通に理解して共に進める教員体制を培う。また、六本木アカデミーでの交流活動や『「主体的、対話的な深い学び」な教育活動を進める』という研究主題を園内研究会と連動して進める。

### V 今年度の取り組み目標とその方策

#### ①幼稚園教育要領の実施

幼児教育においてはぐみたい3つの資質・能力「知識・技能の基礎」「思考力・判断力・表現力の基礎」「学びに向かう・人間性等」を具体的に理解し、指導に生かしていくために園内研究会を活用し、読み合い、学び合いをする。「主体的・対話的で深い学び」は六本木アカデミーの研究主題でもあるので、幼稚園の教育活動、交流活動にも園内研究会との関連も行う。

#### ②多様な動きを身に付けるための活動の充実

園内研究会の副題である。園庭がないから、園庭開放がないからと言って何もしないのもおかしい。その代りに徒歩遠足の適切場所を調べ、当日までの流れや当日の動きと指導、徒歩遠足後の指導と見通しをもって教師が積極的に「歩く!」「広い場所で、起伏のある場所で、固定遊具等の園にはない遊具を使っての動き」を取り入れて活動を充実する。また、昨年度以上に併設小学校の施設利用、講師を招いての「運動遊びの会」保護者も巻き込み「運動遊びの会」等の機会を設定し、保護者、幼児の身体を動かす活動の楽しい機会を体験させる。

園内研究会の取り組みと成果、課題を保護者、地域にも知らせ、課題解決のために協議する機会をもつ。また、オリンピック・パラリンピック推進事業の理解と推進に力を入れ、いろいろな運動に興味、関心をもって、進んで体を動かす意欲を育てる。保護者も巻き込み、一緒に推進に力を添えてもらえるように進める。

#### ③小学校、中学校、保育園との連携活動の充実、小学校への円滑な接続

「家庭で大切にしたいことハンドブック」や「5歳児ポイント集」「港区小学校入学前カリキュラム」等を積極的に活用する意識をもつ。保護者会、学級懇談会等にも活用する。昨年度の年長組担任と麻布小学校の1年生の担任とで幼稚園の修了前の教育内容と1年生の入学後の指導内容のつなぎについて伝え合いを始めた。校長、副校長、教務主任も巻き込み、園長も接続に向けての話し合いを行う。

様々な教育機関と六本木麻布地区としての交流活動を計画している。アカデミー研究と関連するととも

に、併設の麻布小学校、六本木中学校、麻布地区の保育園との交流を意欲的、計画的に進める。その際には幼児・児童が交流活動の中で「主体的に、深い学び」と互惠性のある交流活動のために連携をとり、協議し合って進め、交流後には管理職も加わり、振り返りから次回の計画につなげる。

#### ④地域に根付く公立幼稚園・地域に開かれた幼稚園

行事や創意ある教育活動、学校評議員会に地域の人材を有効的に活用する。多様な体験ができるようにする。ホームページや園だより、学級だよりも工夫して、地域の方との交流を掲載するなど地域に開かれた教育をしていることを周知する。麻布小地区防災協議会の方や民生委員の方等、園長、教員が顔つなぎをし、幼児の教育活動の力添えをしていただく機会を設定したり、地域の方に本園の教育について知らせたりすることで、増築等が建ち、今後麻布小の地区に根付く公立幼稚園となるよう、努力する。